



〇二年に三重大学の産婦人科教授として、「地域産婦人科医の確保」という新聞記事の中で、産婦人科医が減りつつあり、女性医師が育児をしつつ働ける環境整備などの緊急対策を訴えましたが、政策には反映されませんでした。

三年後、全国的に産婦人科医不足が表面化し、警鐘を鳴らしたのに、なぜ誰も真剣に取り組まなかったのかと思いましたが、一回では効果は望めず、また、崩壊するまで対策がとられないのが世の常か

ながやす 豊田 康

■ 豊田 康



とも思いました。もう一つ、当事者の訴えは、

# 当事者の訴え

付金をほぼ半減するという国の試算が出たことに対して学長の緊急記者会見を開き、地方大学は人材育成や産学官連携などかけがえのない地域貢献をしており、機能低下は地域に大きな損失を招くと訴えました。三重県知事や津市長がさっそく行動しましたが、

献活動が評価された結果と考えていきます。この経験から、私は、現場の状況を熟知し本場の核心をつくことができるのは当事者しかなく、たとえ自己の利益のためと受け取られても実情を訴えるべきだと思います。地域医療の崩壊も、今まだらう、とお答えしました。

自己の利益のためと受け取られがちということを感じました。日本医師会はわが国の低医療費政策を批判し続けていますが、開業医の利益のためと受け取られ、医療が崩壊するまで理解されないのではな

全国に広がった動きに対して地方国立大学長の「知事詣で」と揶揄した新聞もあります。自己の利益のための陳情としてか映らなかったのでしょうか。実は今回の件で私は「知事詣で」をしたことはなく、知事や市長の自発的な行動であり、三重大学の地道な地域貢

で病院の医師がシステムの欠陥を使命感からカバーし黙っていたことが状況を悪化させたと思われるのです。私は大学のさまじままできことを発信しよう、昨年十月から三重大学のHP上にある地方大学長のつばや「ある地方大学長のつばや」なるブログをアップしました。さっそくある記者から「PRのためですか？」と質問されました。やはり、何をしても自己の利益のためと受け取られるのかと思いましたが、PRのために書いたブログは誰も読んでくれなくなり、結果的にPRにならないだろう、とお答えしました。

（国立大学法人・三重大学 学長）